

## ◇ 平成15年1～3月期の景気見通しは？

**Q** : 本年初頭の景気の見通しはどうでしょうか。

**A** : 中小企業では、まだまだ景気回復感が感じられないようです。

### 【解説】

財務省の景気予測調査(平成14年11月)によると、平成15年1～3月期の景気見通しについて、大企業では「上昇に転じる」と見る企業が「下降」と見る企業を上回っているものの、中堅・中小企業では、依然「下降」と見る企業を上回っています。

また、大企業では製造業が非製造業よりも「上昇」感が強く、中小企業では製造業が非製造業よりも「下降」感が強いという結果が出ており、製造業では企業規模によって景況感の差が大きいことがうかがわれます。

中小企業を対象に日本商工会議所が行った早期景気観測(平成14年11月)でも、製造業では、「商品提案力や販売力の差による好不調が目立っている」(ニット・シャツ)、「親会社が海外生産を始めたため、受注が半減し廃業するなど、深刻な状況が見られる」(鉄素形材)など、企業間格差を実感する声が目立ちます。

非製造業では、全体にやや「景気悪化」感が弱まってはいるものの、「消費者の収入への不安からくる買い控えがみられる」(商店街)、「各企業の業績悪化により、小型輸送の宅配便は増加しているが、大型トラック輸送が減少」(運輸)など、先行き不安感を訴える声が寄せられています。

